

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670700426
法人名	医療法人社団 みつわ会
事業所名	グループホームひだまりの家
訪問調査日	平成 20年 8月 4日
評価確定日	平成 20年 9月 17日
評価機関名	株式会社 福祉工房

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	670700426
法人名	医療法人 社団 みつわ会
事業所名	グループホーム ひだまりの家
所在地	山形県鶴岡市茅原町27-1 (電話) 0235-25-5502

評価機関名	株式会社 福祉工房
所在地	仙台市青葉区国見ヶ丘6-149
訪問調査日	平成20年8月4日～5日
評価確定日	平成20年9月17日

【情報提供票より】(平成20年 7月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 12年 4月 1日
ユニット数	4 ユニット
職員数	33 人
利用定員数計	36 人
常勤	27 人
非常勤	6 人
常勤換算	32 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	7,500 円	その他の経費(月額)	1,800 円	
敷金	有() 円	無()		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	350 円	おやつ	120 円
	または1日当たり 1,270 円			

(4) 利用者の概要(7月 22日現在)

利用者人数	36 名	男性	5 名	女性	31 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	11 名	要介護4	9 名		
要介護5	6 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	61 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	茅原クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設医療機関、および併設老人保健施設(入所、通所)等との連携により利用者が専門的なサポートを受けることが可能であり、利用者が安心した生活を送ることが可能な施設となっている。また、職員も「ヒヤリ、ハット」等の記録を積極的に利用し、利用者の安全、安心を高める努力を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価での改善すべき事項はありませんでした。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニットリーダーが中心となり取り組み、全体会議で職員と確認。職員も前回の自己評価の改善策についても話し合っている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的開催されており、そのつど評価結果の報告等テーマ設定がされており、解決に向けた討議がされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	各ユニットの入口に意見箱を設置。家族からの意見・苦情は運営推進会議で報告し、必要があれば法人会への情報を提供。事業所以外での苦情窓口の情報も家族へ提供されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域ボランティアの受け入れ、地区の中学生の福祉体験、看護学校の実習等外部からの受け入れは積極的に行っている。地域への参加に関しては町内会への取り組みについては行われているものの現在は職員主体となっており、今後は利用者もできるだけ地域活動に参加できるよう努力されることが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	毎年職員参加のもとに理念の見直しが行われている。法人の理念を基本に施設の事業方針が作られ、これを理念として採用されている。地域密着型の事業所が目指す方向を具体的に示したほうがより理解しやすいと思われる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年リーダー会議により事業計画と共に理念が見直されている。職員にも事業計画と共に説明されており、実践の中でも言葉掛け、支援態度においても活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ボランティアの受け入れ、地区の中学生の福祉体験、看護学校の実習等外部からの受け入れは行っている。町内会への参加取り組みは行っているものの、現在は職員が主体となっている。	○	利用者が地域活動に参加できるよう支援をしていくこと、地域の人に、施設をより理解してもらえるよう積極的な働きかけが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットリーダーが中心となり取り組み、全体会議で確認している。職員も自己評価の意義については良く理解している。前回の改善策も話合っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されており、そのつどテーマが設定され、解決に向けた討議がされている。但し、運営推進会議における参加メンバーは利用者の家族の方が中心となっており、地域の方の参加が少ない。	○	より地域との密着を図る意味でも、参加メンバーに関しての見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鶴岡市介護保険事業者連絡会の部会への参加、及び鶴岡市の補助事業である認知症見守り支援員の実習受け入れを通じて連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の「ひだまり通信」により利用者の状態等を報告している。今年度は更に写真入で報告を行う予定。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの入り口に意見箱を設置。家族からの意見・苦情は運営推進委員会で報告し、必要があれば法人会などにも情報を提供している。事業所以外の苦情窓口の情報も重要事項説明書等で提供している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族には事業所に来たときに紹介をしている。職員間の引継ぎはマニュアルに沿って実施されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で月一回の研修、独自の技術勉強会、新人研修、異動職員に対してはプリセプター制度を実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鶴岡市介護保険事業者連絡協議会における認知症対応型共同生活介護事業所部会や山形県G.H連絡協議会、実践者研修リーダー研修会、日本認知症ケア学会、認知症ケア専門士等の研修に参加、情報交換を積極的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 馴染みながらのサービス 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付け、裁縫等の家事、野菜や花の育て方といった園芸、又美容など、利用者から教わりながら一緒に行うような関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けで外出やレクリエーションの意向を把握している。介護計画におけるアセスメントはセンター方式でチーム内で利用者の意向を確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向を重視した介護計画となっている。ケアのあり方については、必要に応じて医師、看護師、PT、OT、栄養士等もカンファレンスに参加し介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回のユニット会議で見直し及び、居室担当者が介護計画を評価している。利用者の状態が変化した時は電話で連絡、家族からの意見を伺い介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	同一法人内にクリニックが併設していることもあり、利用 者や家族が安心できる医療体制となっている。又かかり つけ医と主治医の関係も家族の意向でクリニックに変 更する利用者もいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	入所時に重要事項説明書の説明時に指針をもとに意 思確認している。食事が摂れなくなった時から家族や かかりつけ医と相談し連携している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	内部研修、外部研修で個人情報保護法を理解するよう 指導している。記録物やファイルは年々増加し保管場 所に苦慮している。普段は使わないような場所にビ ニールシートをかけたりと工夫をしている。表札は利用 者の部屋については外来者にわからないようはずして いる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	天気のいい日は買い物や散歩に出かけるよう声掛けを 行っている。利用者自らはなかなか出かけたがらない のが実情。洗濯物を干しに行く等、外出の機会を作っ ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞き、献立作成に役立てている。パン食、行事食もある。食事は利用者と共に調理しており、下げ膳や洗い物も共に行っている利用者もある。利用者・職員は共に食事を取っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一週間に2回であるが、家族からは夏場は入浴回数を増やして欲しいとの要望がある。職員の配置により時間を検討し希望に対応できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報で利用者にしていただき、それが役割になっている。役割を継続するにはどの範囲で自信を持ってやっていただけるかアセスメントしている。化粧療法、レクリエーション、草取り、ごみ広い等に参加している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	声掛けで散歩等に誘っている。重度化している方が多い為外出を好まない利用者が多い。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	毎年運営推進会議の検討課題である家族側からは鍵をかけて欲しいという訴えがある。利用者が希望する時は鍵をはずし一緒に行動するといった対応をしている。今後は帰宅願望のある利用者のアセスメントが必要と思われる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、内1回は消防署の協力を貰い防災訓練を実施している。夜間想定訓練も実施しており、夜勤時の緊急マニュアルも整備し職員に周知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はチェック表、個人ファイルに記録、主治医から病気等に合わせて指示、指導を頂き、同一法人の管理栄養士と相談しながら対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるようにと折り紙や利用者の作品、写真集で飾っている。ややもするとグループホームというよりデイサービスセンター的な雰囲気になってしまう恐れがある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学した限りにおいては、寝室はタンス、ベッドと利用者の写真くらいで殺風景である。家族の方と相談はしているものの理解は得られない模様。今後家族の方の理解を深め、利用者が居心地の良い居室の工夫がほしい。		